

消防団員確保に向けたアンケートについての結果報告

対象は消防団員と一般市民で、回答数は消防団員が215件、一般市民が97件です。

まず消防団員アンケートの結論から申し上げますと、消防団の活動そのものは評価されている一方で、時間的・精神的な負担が大きく、続けにくいと感じている団員が多いという結果でした。

消防団に入って良かった点としては、問3の結果のとおり、73%の方が「地域貢献ができた」「地域の方と交流が持てた」と回答しており、消防団に入って良かったと感じている方は非常に多いことが分かりました。

一方で、消防団に入って困っていることは、問4の結果のように、操法や訓練の回数・時間、仕事や家庭、プライベートとの両立が難しいと挙げた方が合わせて60%います。

また、問5の団員確保が難しい理由としても、イメージの悪さが26%、操法や訓練の回数・時間の多さが24%となっており、活動の中心や負担が、新規入団の壁になっていることがわかります。

問6の実際に活動へ参加できない理由を見ても、仕事が92%、家庭の用事が63%となっており、やる気の問題ではなく、時間の問題が大きいと考えられます。

問8の「消防団を続けたいですか」という問いでは、続けたいが45%ある一方、行事や訓練時間が改善されるなら続けたいが15%あり、条件付きも含めると、改善次第でもっと多くの団員が続けられる可能性があるということだと思えます。

問10の消防団行事の開催についてどのように感じているかでは、岐阜県消防操法大会については、廃止が43%、縮小が24%と、現状に否定的な意見が多数を占めました。また操法に伴う結団式や激励会についても約60%が廃止、縮小となっています。

その一方で、問11の実施したい訓練については、火災想定訓練を実

施したいという声が47%あり、団員の皆様は実戦的な訓練の必要性を感じていることが分かります。

また、問13の現在の消防団に必要なこととしては、負担の軽減が38%、時間の短縮が22%と、ここでも時間と負担が最重要課題として挙げられています。

以上のことから、消防団の意義や必要性は十分に理解されているものの、活動の量や時間を見直し、無理なく続けられる体制づくりが課題であると考えられます。

今後は、訓練や行事の精査、操法大会の在り方の見直し、実戦的訓練へ移行するなどを検討していく必要があるというアンケート結果になりました。

(アンケート結果をもとに【ChatGPT】により集約し、作成しました)